



Woonerf Inc.

2024年GBJシンポジウムにおける 廃棄物に関するレポート

TRUE Event認証の観点から

2024年11月29日

株式会社ヴォンエルフ

ZERO Waste(廃棄物ゼロ)とは？

持続可能な循環を目指し、廃棄物や有害物質を排除し、**資源を節約・回収しながら、** **燃焼や埋め立てを行わないことを意味する。**

ZERO Wasteを実現することで、土地・水・空気への排出をなくし、**地球や生態系、人間の健康を守る**ことが可能になる。



TRUE 認証とは？

TRUE (Total Resource Use and Efficiency) は、施設が固形廃棄物を最小限に抑え、**資源を最大限に効率よく利用**しているかどうかを評価する。

★直近の12ヶ月間において、**90%転用率**の達成

90%以上の廃棄物が埋立、焼却に回わず、削減、返却、再利用、再製造、リサイクル等により転用される。

★5つの必須要件を満たし、81Credit pointsのうち31以上を獲得し、Certified～Platinumまでランキングされる。

ZERO Wasteを目指すための評価システム

TRUE認証の取得事例

・オフィス、病院、学校、博物館、スポーツイベント、物流、ホテル、工場、など業種問わず、**32か国・480以上**の施設が認証を取得した。



TRUE認証の取得メリット

- **第三者機関(GBCI)認証**により、Green washや不正の主張から施設を守る
- SDGs 17のカテゴリのうち、14項目をカバーしており、**SDG s 項目への貢献**が可能
- 認証取得により、不動産ポートフォリオを評価するGRESBにて**加点可能**
- LEED ZERO Waste **取得可能**



Contents

- 01 実施内容
- 02 廃棄物の発生状況
- 03 リサイクル率
- 04 今後の対策－TRUE認証の観点から



実施内容

目的：本シンポジウムにおける廃棄物監査を、TRUE Event認証の観点から踏まえ模擬的に実施する。今後のシンポジウム開催する際に、廃棄物削減につながる対策を検討する。

イベント概要：

イベント開催日（2024年10月24日、13:00-20:00）

会場名：神田明神ホール（1F,2F）

人数：参加者170人、スタッフ20人

実施手順：

- 1.会場と控室にて、来場者と運営スタッフにゴミ捨て時の分別をしてもらう。
（燃えるゴミ、ペットボトル、缶、紙類、プラスチック）
- 2.Wが廃棄物の重量を計測する。
- 3.廃棄物はWが全て持ち帰り、リサイクルに回す。
- 4.Wが結果を分析し、改善点を提案する。

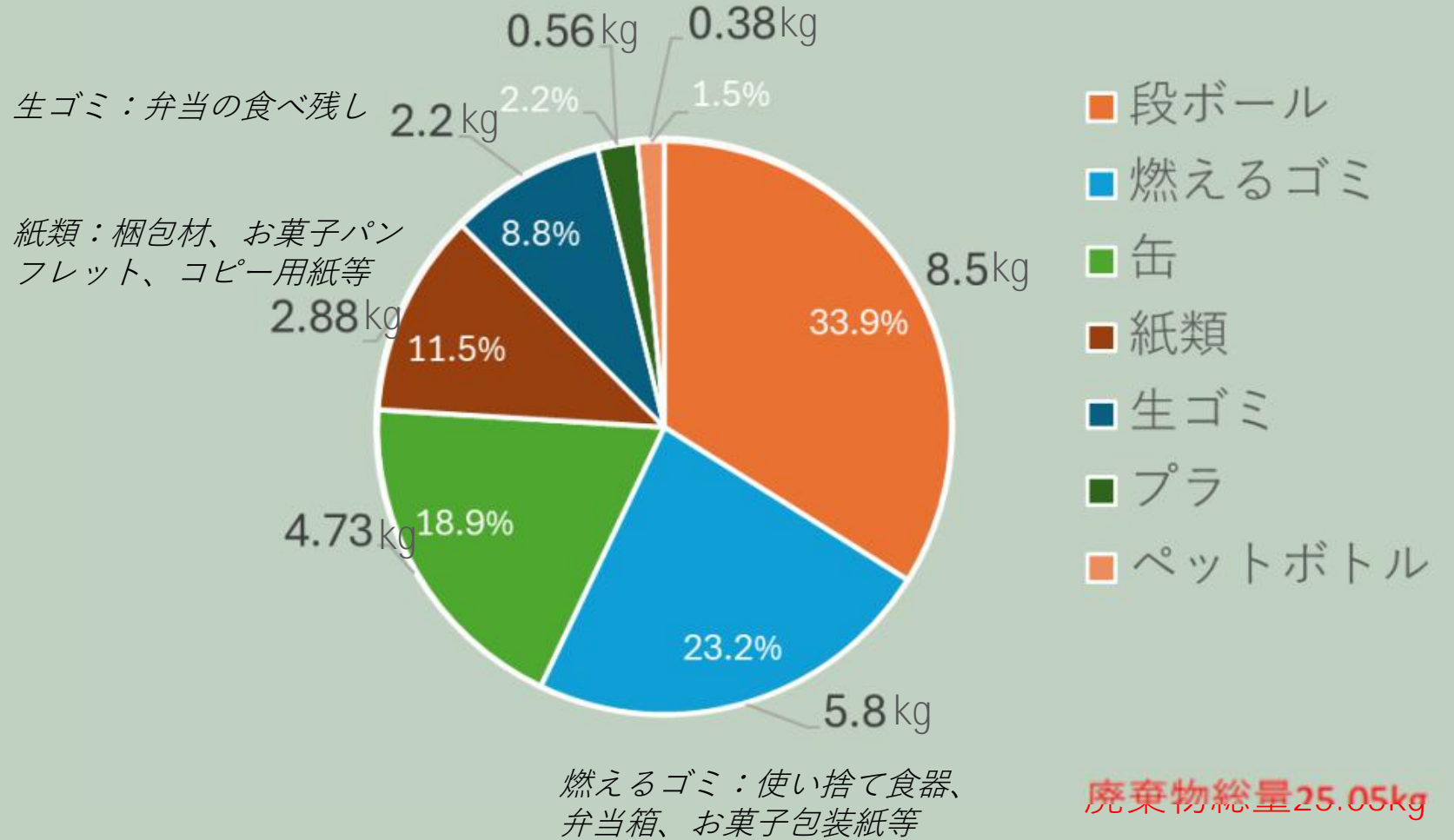
会場のゴミ箱設置様子



スタッフ控室のゴミ箱設置様子



廃棄物の発生状況



廃棄物総量25.05kg

リサイクル率68.1%

廃棄物の分別状況

廃棄物全体はほぼ正しく分別され、処理されたが、

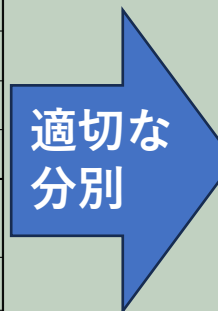
一部の廃棄物は該当しないゴミ箱に入れられたことが発見された：

- ペットボトル、缶等に、飲み物が残したまま捨てられた。
- ペットボトル、缶を回収するゴミ箱に、ティッシュ、プラが捨てられた。
- 燃えるゴミに、段ボール、パンフレット、コピー用紙、プラ等が捨てられた。



リサイクル率

	廊下		控室①、②		会場		小計 kg
	正しい	間違い	正しい	間違い	正しい	間違い	
段ボール	(全体)						8.5
燃えるゴミ	弁当箱 紙		色々		使い捨て食器 (プレート、フォックス、ナプキン)		3.2
	弁当箱 プラ						0.5
	その他				ケーキ箱		2.1
缶	小(280ml)	飲み残し			小(280ml)		2.6
	中(350~370ml)				中(350~370ml)		1.63
	大(500ml)				大(500ml)		0.5
紙類	梱包材		ティッシュ、おにぎり包装		ケーキ、お菓子のパンフレット	会場ガイド用紙 (テープ付)	2.78
					ペーパータオル		0.1
生ゴミ	弁当食べ残し						2.2
ペットボトル		ティッシュ		飲み残し			0.38
プラ		汚れた	色々	ティッシュ	色々	お菓子包装、汚れた紙	0.55
		飲料パック					0.01



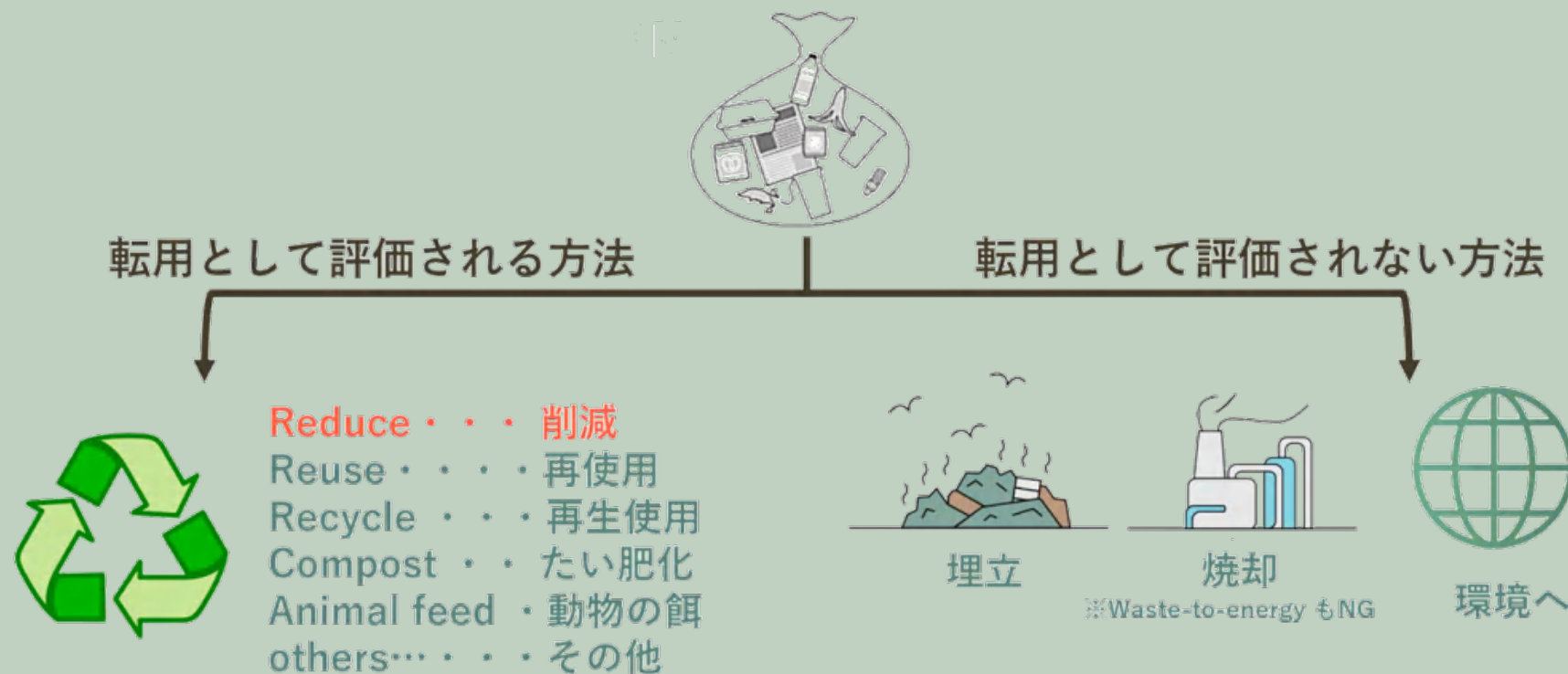
分別後の廃棄物内訳とリサイクル率

	処理方法	重さ(kg)	%
段ボール	リサイクル	8.5	35.5%
燃えるゴミ	焼却	5.8	24.2%
缶	リサイクル	3.63	15.2%
紙類	リサイクル	2.66	11.1%
生ゴミ	焼却	2.2	9.2%
汚れたプラ、紙	焼却	0.49	2.0%
ペットボトル	リサイクル	0.36	1.5%
プラ	リサイクル	0.31	1.3%
合計		23.95	100%
リサイクル率			64.6%

飲み残し(除外) 下水道流し 1.1

再度分別した後、飲み残し部分を除外して、一部汚れたプラと紙が燃えるゴミに分類した結果、リサイクル率が68.1%から64.6%に下がった。

TRUEにおける転換率



$$\text{転用率 (Diversion rate)} = \frac{\text{転用量 (Reduce, Reuse, Recycle, Compost, others)}}{\text{総発生量 (転用量 + 非転用量)}} \geq 90\%$$

次回のシンポジウムにてTRUE Event認証を目指す場合、**転換率90%**を達成するためには、リサイクルに注目するだけでなく、事前の廃棄物削減対策（ゴミを出さない計画）を取り入れる必要がある。

今後の改善 TRUE Event認証の観点から

廃棄物削減対策

- 今回回収した容器を換算し、**イベントで約90L（一人当たり約500ml）**の飲み物が消費された。今後ペットボトル、缶等の容器、梱包材の段ボールの削減には、ウォーターサーバーを導入して、来場者にMy bottles持参またリユースカップ配布等を実施することが考えられる。
- お弁当やお菓子等の提供では、パンフレットや調達用の包装資材、使い捨てのプレートとフォークやナプキンなど、ゴミが大量に発生した。ゴミを発生させない仕組みを予め検討する必要がある。例え、今後のイベント会場の選定にあたっては、持続可能な方向での食材やカトラリーの提供、生ゴミの堆肥化などに対応できる場所との連携が考えられる。





TRUE認証に関する問い合わせ
nakayama@woonerf.jp
tei@woonerf.jp

